

## 市民環境部の経営方針の総括

### 1. 部の方針・重点課題の総括

#### ●部の方針

～「市民の快適な生活環境の実現と緑豊かな自然環境を保全する」ために～

- ・地球環境を視野に入れた環境課題への市民理解を進め、身近なところからの環境保全を推進する。
- ・市民サービスを確保する中で事業のさらなる効率化を図り、経費抑制に努める。
- ・協働事業の実施により市民、団体等との連携を強化し、行政、市民一体となった良好な生活環境づくりを進める。

#### ●部の経営資源

##### 【市民環境部】

- ・職員数（平成 23 年 3 月 31 日現在）  
部長 1 人 資源廃棄物課 14 人 環境保全課 9 人 市民課 21 人  
市民環境部職員計 49 人（うち常勤・非常勤嘱託職員数 4 人）  
職員比率（正規職員）10.5 %（市民環境部 45 人/市職員 427 人）
- ・決算額（平成 22 年度）  
一般会計 2,859,360 千円

#### ●部の重点課題

- ・環境負荷の少ない持続可能な地域社会づくりの推進  
環境負荷の少ない持続可能な地域社会づくりを目指し地球温暖化防止に貢献するため、これらの問題に対する市民意識の醸成を図るとともに市民自らができるところからの行動を促す。
- ・循環型社会構築の推進  
循環型社会構築へ向け、廃棄物の効率的な適正処理を進めるとともに、さらなる資源化の推進を図り、ごみ減量対策を進める。
- ・自然環境・生活環境の保全推進  
環境基本計画に基づき、自然環境・生活環境の保全（河川・海岸・水源涵養）などの事業を県・関係課・団体等と連携して進める。生活型公害については、関係機関と連携して、啓発や指導に努める。
- ・環境面における協働・共生のまちづくり推進  
各環境関連事業について、市民・環境団体・コミュニティ等の地域団体・事業所・関係行政機関等と連携して推進するとともに、協働・共生のまちづくりを推進する。

・窓口等の充実による市民サービス向上

市の顔である市民課窓口の事務改善に取り組み、市民サービス向上と経費節減とが両立する効率化を進め、市民満足度の向上を図る。

## 【総括】

「市民の快適な生活環境の実現と緑豊かな自然環境を保全する」ため 5 項目の重点課題を定め施策や事業を進めた。

環境負荷の少ない持続可能な地域社会づくりの推進では、社会（経済）発展と環境保全を両立する「持続可能なまちづくり」の実現に向け宗像市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定した。

循環型社会構築の推進では、市民、事業者、行政がそれぞれ主体的かつ協働でごみ減量・資源化に取り組んだ結果、総排出量は前年度より 583 トン減少した。減量幅は家庭系では順調に推移し、事業系も 18 年度をピークに毎年減量している。分別収集については、地域分別ステーションを基本に、清掃工場敷地内の北側受入施設と、西側受入施設、市内の資源回収ボックスで行い、資源物の品質保持と量の拡大に向けた啓発を行った。

自然環境・生活環境の保全推進では、「ホテルの再生」や「カノコユリの保存・繁殖活動」に着手した。「宗像市管理施設における化学物質使用に関するガイドライン」を策定し、関係部署に適正使用を促した。また、「浄楽苑宗像斎場」の運営及び維持管理を適正に行うとともに、施設の更新については現施設での増改築を基本とした基本計画書を策定した。

環境面における協働・共生のまちづくりの推進では、環境保全の取り組みとして、市民・環境団体・コミュニティなどとの協働により、「環境フェスタ」、「釣川クリーン作戦」、「不法投棄監視パトロール」、「生ごみ堆肥化講座」などの取り組みを実施するとともに、さつき松原は区域ごとに市民や企業等の管理団体を定める「アダプト・プログラム」（公共施設の里親制度）の導入で管理体制が確立されたことにより、白砂青松に相応しい良好な景観が整備されつつある。

窓口等の充実による市民サービス向上では、事務改善の取り組みとして、受付発券機、呼び出しモニターを設置するとともに証明書発行などの窓口業務の一部委託を行い、市民サービスの向上と業務の効率化を図った。

## 2. 部の目標の達成状況

### (1)市民のための行政サービスの充実

・窓口業務の事務改善を進めるとともに、ユニバーサルデザイン化を進め、誰もが利用しやすい快適な空間の提供を行う。

## 【達成状況】

窓口サービスの向上及び窓口業務の改善・効率化のため、窓口における受付発券機・呼び出しモニターの設置、証明書等受付・発行などの窓口業務の一部委託を行った。

また、行政サービスの充実のため、証明書発行における自動交付機の更新・再配置及びコミセ

ン配送サービスの見直し（即時交付サービスへの移行）に関する方針を定めた。

### (2)ごみの適正処理とリサイクル

- ・平成 22 年度に策定する「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」に基づき、ごみ減量とリサイクル推進の目標達成に向けて、市民との協働による取り組みを進める。また、環境活動団体やコミュニティ等と連携して環境保全に努める。

#### 【達成状況】

ごみ減量については、3Rの中でも一番環境に優しいリデュース（発生抑制）の取り組みに力を入れ、環境活動団体と協働事業によりコミュニティ・センターを核とした生ごみ堆肥化講座の開催や、職員による出前講座で生ごみ水切り減量実践講座を開催するなど、発生元から生ごみ減量を促進した。なお、生ごみ減量が手軽に取り組めるダンボールコンポストを補助対象品目に加え、一層の生ごみ減量を促した。また、子育て・教育用品の不用品のリユース（再利用）普及や、環境講座の開催など環境活動団体と連携し協働による取り組みを拡大した。

その外にも、計画に基づく事業実施により、平成 22 年度の 1 人 1 日あたりのごみ総排出量は、924.1 g/人・日と前年度から 18.3 g（-1.9%）減少した。

リサイクルの推進については、資源物の品質保持と量の拡大に向けた普及啓発として、コミュニティ・センターや市役所を会場に分別収集代表世話人説明会を開催した。また、資源回収ボックスを設置するスーパーやコンビニなど 40 店舗を巡回訪問し、事業者の協力の元、品質の確保と量の増加を図った。

環境保全については、環境活動団体の清掃活動支援や、コミュニティ運営協議会と連携した不法投棄監視パトロール及び清掃活動を行った結果、可燃ごみ 20 トン、不燃ごみ 11 トンの不法投棄ごみの回収を行うとともに再発防止の看板設置など市内全域の環境衛生・保全に務めた。

### (3)環境衛生の向上

- ・典型 7 公害に対し関係機関と連携して対処していくとともに、光化学オキシダントなど新たな対応が求められている課題に対して、状況把握や情報提供に努める。
- ・野外焼却や、空き宅地の雑草繁茂、犬猫のフン害などに対しても、関係機関や地域の協力を得ながら、指導や啓発を図る。
- ・老朽化が進む「浄楽苑宗像斎場」については、改修のための基本計画を策定する。

#### 【達成状況】

光化学オキシダント対策については、注意報・警報発令時の対応をマニュアル化し、緊急時の対応に備えた。また、市管理施設で使用する農薬や殺虫剤、床ワックス等の化学物質による健康被害を未然に防ぐため、「宗像市管理施設における化学物質使用に関するガイドライン」を策定し、適正管理の推進を図った。

河川の汚濁や野外焼却、空き宅地の雑草繁茂、犬猫による被害等については、関係課や関係機関、地域等と連携して、助言・指導や周知・啓発等を行い、効果的な対応に努めた。

「浄楽苑宗像斎場」については、適正な管理・運営を行った。火葬場施設の整備については、増改築基本計画を作成し、施設整備の基本方針と整備計画の概要を決定した。

#### (4)汚水の適正処理

- ・合併浄化槽の維持管理費に対して補助金を適正に支給する。

#### 【達成状況】

浄化槽管理者に対して、合併処理浄化槽の維持管理費補助金を適正に交付し、生活排水の適正処理の推進を図った。

#### (5)水辺の美しいまち

- ・環境基本計画に基づき、多くの市民が水辺が美しいと感じられるよう、自然・水の大切さについての市民啓発を進めるとともに、釣川、海岸、さつき松原など自然環境の保全を市民や企業との協働により進める。
- ・さつき松原は区域ごとに管理団体を定めるアダプト制度を導入し管理体制を確立させる。
- ・ホテルの飛翔状況を調査し、ホテルマップを作成、これをもとにホテルの再生事業に取り組む。

#### 【達成状況】

さつき松原海岸におけるラブアースクリーンアップ 2010 では 300 人、釣川クリーン作戦では 2,900 人の市民や企業の参加を得て清掃活動を実施した。

さつき松原においてはアダプト・プログラムの導入により、25 区画（約 12ha）を 22 団体による清掃活動で、良好な景観が再生されつつある。環境教育としては、市内小学校の 4 年生を対象とした水辺教室では、15 校 30 クラス 853 人を 21 回に分けて実施した。

ホテルの再生においては、むなかた「水と緑の会」20 周年事業に合わせてホテルマップを作成し、コミュニティや学校へ配布するとともに各地区コミュニティの協力を得て、ホテルモニターを設置し、各地区の飛翔状況を平成 23 年度から公表する。

#### (6)環境にやさしいまち

- ・環境講座やイベントなどを通じて、環境にやさしい生活や活動の市民への拡がりを促進する。
- ・特に、地球温暖化対策については、太陽光発電設備補助制度を継続するとともに、市民や事業者などを含む、市域での取り組みを推進していくための実行計画を策定する。
- ・絶滅危惧種で市の花でもある、カノコユリの保存・繁殖活動に着手する。

#### 【達成状況】

環境講座については、吉武地区コミュニティで出前講座を実施し、環境リーダーの育成を図った。また、11 月に開催した環境フェスタは、来場者 3,200 人。省エネや地球温暖化防止、ごみ減量などの身近な環境活動の啓発を行った。

地球温暖化対策を具体的に推進するための「宗像市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定した。また、太陽光発電設備補助制度を活用した件数は、平成 22 年度は 231 件（前年比約 102%増）であり、太陽光発電システムによる二酸化炭素排出量の削減に効果があった。

市の花カノユリの成長や開花を通じて市民の郷土を愛する心を醸成するため、カノユリの再生事業に着手した。